2017 年 9 月 16 日

藤井誠一郎

「第12回全国大学政策フォーラム in 登別」参加報告

概要

2017 年 8 月 30 日（水）～9 月 1 日（金）、北海道登別市にて「第 12 回全国大学政策フォーラム in 登別」が開催されました。本学からは 3 年生 10 名が 2 チームに分かれて参加しました。参加学生は、3 年生川副歩生君、浅野華代さん、本田将拓君、新井康平君、山口泉さん（以上、A チーム）、福本瑞希さん、鈴木一穂君、渡辺孝輔君、大川千鶴さん、深谷亮太君（以上、B チーム）の 10 名でした。

当該政策フォーラムは、登別市が抱える多種多様な課題についての解決策（政策）を提案し、全国から参加する大学と政策の質を競い合うという形で進められます。今回のフォーラムには、全国から 7 大学 14 チーム、104 名の学生が参加しました。

登別フォーラムへの大東文化大学からの参加は、本年度で 3 回目となります。2016 年度から政治学科のアクティブ･ラーニングとして本格的に実施しており、本年度からはさらに内容を充実させて水曜日 5 限目に共通講座の開催や事前学習時間を別途設定し、そこで事前に対策を行った上で登別フォーラムに参加する形をとりました。アクティブ・ラーニングに参加しても単位にならないのですが、それにも関わらず参加者は意欲的に参加して準備を行い、本番に臨みました。

フォーラムでは、限られた時間の中で調査を行って政策を完成させていくことはもちろん、プレゼン時に使用するパワーポイントまで作成しますので、かなりのハードワークになります。また、提案にあたっては事前の下調べが必要になりますので、参加する学生にはかなりの負担が強いられることになります。

今年度のフォーラムで与えられたテーマは、「『温泉観光』から脱皮した新たな『登別観光』構想を！！」でした。温泉で有名な登別ですが、温泉以外にも多くの地域資源があり、それは十分には活かしきれておらず埋もれているという状況です。そこで、温泉観光から脱皮した登別観光を志向し、そのための政策を提言することが今回のテーマとして設定されました。

本学の 2 チームは、「ペットと楽しめる登別観光」（A チーム）、「ウォーキング観光」（B チーム）をテーマとし、調査を進めていきました。事前対策である程度案を煮詰めていましたが、2 日目のヒアリングで現地での状況が分かり、また、様々な制約があることが判明し、どのように提言を修正して纏めていくかに苦労することになりました。ほぼ徹夜で発表準備を行い、3 日目のプレゼンの場に臨みました。

発表は、参加 14 チームがそれぞれ 10 分の持ち時間でプレゼンを行っていきます。参加学生はもちろん、地元の方々の前でも発表するため、どのチームも緊張しながらプレゼンを行っていきます。時間を超過すると打ち切られますので、事前の練習も必要となります。他大学にも負けられないという状況でもあり、かなりのプレッシャーの中で各チームはプレゼンを行っていくことになります。

結果、本学の A チームが 2 位に入賞するという快挙を遂げました。これまで登別フォーラムでは本学の入賞はなかったため、歴史に新たな 1 頁を刻む形となりました。残念ながら B チームは入賞を逃しましたが、両チームとも一つの事を最後までやり遂げたという達成感や充実感に満たされていました。来年度は 1 位での入賞を目指したいものです。

1 日目　8 月 30 日（火）

成田空港に 9 時 30 分に集合したメンバーは、10 時 15 分成田発の LCC にて新千歳空港へと向かいました。前日に現地の気温は 20℃と聞いていましたが、到着するとかなり肌寒く感じられ、北海道は既に秋であると実感しました。直ぐに高速バスに乗り換えて、路線バスに乗り継ぎながら登別温泉へと到着しました。

乗り換えのバスを待つ様子

登別温泉に無事到着

14 時 30 分に登別グランドホテルに集合し、政策フォーラムが始まりました。今年は参加大学が多く、本学の他に、同志社大学、埼玉大学、立教大学、流通経済大学、名古屋市立大学、摂南大学、の 7 大学から合計 14 チーム 104 人が参加しました。

1 日目は観光バスに乗車して市内の見学を行います。海の幸があがる登別漁港、北海道の雄大さが感じられる札内台地、川上公園、亀田記念公園、災害時の避難場所を想定して新築した鷲別小学校を案内して頂けました。

札内台地

説明を受けながら札内台地を見学する様子

その後、開場に到着し懇親会となります。懇親会では各チームの紹介、発表の順番のくじ引きを行い、他大学生と歓談し交流を深めました。大東文化大学の発表は A チームは 2 番、B チームが 10 番となりました。

会場（鉄南ふれあいセンター）に到着

懇親会での小笠原市長の挨拶

Aチームのチーム紹介

Bチームのチーム紹介

その後、ホテルに帰り、近隣にある地獄谷の見学に行きました。昨年はボコボコと温泉が湧き出ていましたが、今年はあまり出てきませんでした。周期的に噴き出す間欠泉であるためですが、温泉が湧き出てくるところを見たかったものです。

なお、その後はホテルで温泉に入り、寝る前に各チームとも明日に向けての打ち合わせを行いました。

温泉が噴出してくるところで記念撮影

地獄谷の入り口にて

2 日目　8 月 31 日(木)

2 日目はヒアリングの日です。各チームとも事前に申請してたヒアリング先の方に質問し、現地の情報を聞きだします。A チームは登別市観光振興グループ、ペットの宿泊が可能な第一滝本館、ペットショップなどから、B チームは商工会議所、郷土文化研究会、登別市観光振興グループ、NPO 法人ももんがクラブ、等からヒアリングを行いました。事前に調べてきてきたことをヒアリング対象者にぶつけてみて反応を見たり、現場の状況を教えて頂いたりします。過去 2 年間は、このヒアリングで大どんでん返しを食らい、事前に作ってきた案を徹夜作業で再度構築し直してきました。今回はそのような大外科手術は無かったですが、聞き出した情報を元に、自らの提案を変化させ、実現可能な提案へと仕上げていきます。

Aチームのヒアリングの様子。観光振興 G、環境対策 G よりヒアリングを行う。

Bチームのヒアリングの様子。商工会議所、観光振興 G よりヒアリングを行う。

最近のフォーラムでのヒアリングは、会場となる鉄南ふれあいセンターに、ヒアリング先の方々が来て頂けるような形で進められてきましたが、効率良くヒアリングができるのは良いものの、学生が会場に缶詰になるという状況になっていました。せっかく登別に来たのに町の雰囲気が分からず帰っていくという状況でしたので、「学生を地域に出したい」と要望しておりました。その点を実行委員会が汲んで頂き、今回からレンタカーを用意して下さることになりました。登別に来た限り登別の町を感じてもらいたく、また、現地で生の声を聞いて欲しいとも思っていましたので、このような改善は非常に良かったと思えました。学生の皆さんは満足していました。

ヒアリングに向かうＢチーム

会場となった鉄南ふれあいセンター

2 日目のヒアリングを終えた時点で、藤井は 9 月 1 日の学内業務のために帰京しました。2 日目の夜が山場なのですが、今回は学生の力でその山を乗り越えて頂かざるをえず、不安を抱きながら岩橋先生に学生指導をお願いして帰京しました。

研究室に 22 時過ぎに到着して両チームの進捗状況を確認し、その後は自宅で電話相談に応じました。両チームとの朝方まで作業に追われ、ほぼ徹夜に近い状態でした。

3日目　9 月 2 日(木)

いよいよ発表の時となりました。藤井は朝から用務でしたが、皆さんの発表が気になってしかたありませんでした。「A チームが終わった頃かな」、「B チームが今発表かな」と思いながら用務に取り組んでいました。

ここで、学生の発表原稿を記載しておきます。

A チーム

突然ですが、皆さんは何かペットを飼っていますか？総務省データによると 2016 年末現在ペットを飼っている世帯は日本全国で約三分の一あるといわれています。そしてペットを家族の一員としてともに遠出や旅行を行うことが「ペットツーリズム」として非常にメジャーなものとなっています。そこで私たちはこの「ペットツーリズム」の主であるペット観光というものが登別市でもできないかと考えました。

実はこの登別市にもペットと泊まれる温泉宿として第一滝本旅館などがあります。すなわち、登別市はペット同伴で訪れることができる観光地の一つであると言えます。しかしながらペット同伴で登別市を訪れた観光客はペットとの思い出を残すことができるスポットが何かほかにあるのでしょうか。登別温泉にペット同伴で旅行していた観光客の方にペットとの旅行に求めることをヒアリングして結果、次のような事の意見を伺いました。これらの条件は現状の登別市では満たされているとは言い難いでしょう。

事実、登別市内の公園は全てペットの連れ込みが禁止されていました。背景には登別市で議員提案の条例としてペットの糞の不始末が問題に上がったことがあげられます。しかし、現在はペットの糞の処理に対しての意識が高くなっている市民が増えていることが、市に対してのヒアリングで判明しました。

近年、近隣の市では、ペットの連れ込みが禁止されていた公園を意識の向上によりペット連れ込みを可能にした例があります。「ペット観光なんてものを推奨すると糞の不始末がまた多くなるのではないか」と思うかもしれません。

そこでペット観光推進の先駆けとして市内の公園や公共施設などにペットの糞始末専用のごみ箱を設置します。市内の公共の公園をいくつか見て回りましたが、公園の管理が市によってしっかりなされていました。ここに付属させるという形で設置します。一気にすべての公園で実施するのではなく、はじめは一部の公園に設置し、徐々に範囲を拡大していくのが良いと考えます。このごみ箱は、一般のごみ回収の際に同時に回収してもらいます。設置費用は既存で存在するふるさと納税の市民活動の促進に関する事業部門や環境保全と景観の形成に関する部門から賄います。

これにより、旅先でも糞の始末に困らずに安心して旅行することができます。オリジナルの糞処理用の袋をペットと共に連れて訪れた観光客に無料で配布するのもいいかもしれません。ペットの糞処理専用のごみ箱を町の至る所に設置することにより、観光客だけでなく、地元の方も糞を家まで持ち帰らなければいけないというストレスや不快感から解放し、糞をしっかり処理してくださる方が増えると予測できます。さらに、糞の始末に対しての向上してきている市民の意識を促進させることが期待できるでしょう。これにより、街の美化にも繋がり、ペットを連れて訪れることができる他の観光地との大きな差別化を図ることができます。

では、我々が提言するペットと楽しめる登別観光政策について説明します。まずはペットが喜ぶものを作ります。これはペットフード、又はおやつが最適かと思います。登別市は鮭や乳製品などの特産物があります。これらを使い登別オリジナルのペットフードを作成します。実際に鮭を使ったペットフードと、牛乳を使ったクッキーを作りましたが簡単にできました。ペット同伴可能な旅館ではペットフードは持ち込み式となっています。登別オリジナルペットフードを作り、旅館で提供。また売店などで販売を行えば、登別のお土産にもなりますし、新たなブランドになることも期待できます。

次に紹介するのはペットとの思い出を残せるイベントについてです。我々が考えたのは「登別絶景ポイントでペットと記念撮影」イベントです。これは観光業界などが予め指定した、もしくは旅行者が登別観光中に見つけた絶景ポイントを絶景にペットとともに写真を撮ってもらいます。

撮れた写真をコンクール形式に応募して貰います。行政側に確認をしたところこれを行うのは難しくないとのことでした。自分のペットのよく撮れた思い出の写真を他人に自慢したい。ペットを飼っている人ならこの気持ち、共感できますよね。

写真として撮ればＳＮＳなどにも簡単に個人でアップでき、様々な人の目に留まる可能性があります。応募されたこれらの写真を特設サイトや公民館での掲示などで地元の方に審査してもらいます。これにより、審査する地元の方も登別市の美しい景色を再確認することができます。このイベントに応募された写真は一定期間特設サイトや公民館などに掲示します。

審査で入賞した人にはオリジナル写真フレームなどの景品を差し上げます。写真フレームを差し上げることによって、登別での旅の思い出を形として飾ることができますし、それを登別のオリジナルのものにすることにより、登別での楽しかった思い出を忘れずに、また行こうと思ってもらえ、旅の思い出を残すことができます。

さらに、この政策では登別市を訪れた観光客とペットに、思い出を記録として残してもらい、また、結果として登別でペットを飼っている人にとっても現在ペットの連れ込みが禁止されている公園も徐々にペットの連れ込みが可能になり、ペットと共に生活しやすい街にすることができます。

多くの人のペットへの愛護の気持ちも芽生えさせることも可能となり、ペットも住みやすい地域に代わっていくことができると期待できます。

様々な派生の実現がされ、糞処理が促進された環境、豊かな地が作り出す特産品、また、ペットとの思い出を作ることができる観光地を確立することができれば、訪れた観光客も満足でき、ペットとの一生の思い出を形として残せる観光名所になるのではないかと考え、我々の政策提言といたします。

B チーム

これから大東文化大学藤井ゼミ B チームの発表を始めます。

今回、私たちに与えられている課題は「温泉観光」から脱皮し、新たな「登別観光」を構想することです。私たちの発表では、この構想の提示に絡めて、登別市が抱える問題を解決するような観光を提言します。

現在、登別市では未婚率の高さ・地域間交流の薄れという問題が存在しています。登別市の 25 歳から 29 歳の未婚率は男性７割、女性６割となっており、登別市まち・ひと・しごと創生総合戦略の子育て施策向けアンケート結果で未婚者を対象に結婚の印象について聞いたところ 32.8%という高さで地域内での出会いがないと感じる解答がありました。さらに、地域間交流の薄れですが、なかなか職場以外の人と関わる場が少ないので年齢等に関係なく様々な地域の色々な世代の人と交流するイベントがこれから増えていくと良いという意見があります。このような現状を踏まえ、今回、私たちは登別市が抱える問題点を同時に解決していくような政策を提言します。名付けて「アモーレ登別政策」です。

ところで、みなさんはウォーキングの利点について知っていますか？ウォーキングは日本人の３人に１人が行っていると言われています。健康面への効果だけでなく、地域コミュニケーションの熟成などの効用をもたらします。そこで「歩く」から始まる観光の仕掛けづくりができます。現在、地獄谷を巡るウォーキングが行われていますが、私たちは登別そのものの良さを知ってもらい男女が出会うという「婚活ウォーキング」とします。

次に、この「婚活ウォーキング」に「地元学」を組み込もうと思います。この「地元学」とは、地元に住んでいる人たちが外に住む人たちとともに、自分たちの住んでいる地域について調べ、自分たちの地域の良さを知り、地元愛を育み、そこで生活していこうとする意志を育んでいくような取り組みのことを言います。地元の人たちが、観光客と共に歩き、見て回ることで自分達のみでは気付くことのできなかった登別の良さを再発見していきます。

それでは「アモーレ登別政策」について説明していきます。若者向けに登別市在住の男性＋観光客の女性のペア、或いは逆に、登別市在住の女性＋観光客の男性ペア、という組み合わせを作り、登別の観光地や自然や街を歩いていきます。この歩く行為によって仲を深めることがこの男女らの最初の出会いとなります。また、自然の中を歩くという非日常な時間を一緒に過ごすことで短時間でも仲良くなりやすい、雰囲気作りや出会いのきっかけにもなります。このウォーキングイベントの事例としては、大東文化大学がある埼玉県東松山市が挙げられます。東松山市で行われている「日本スリーデーマーチ」はオランダに続き世界第２位の規模を誇り、毎年約８万人を超える人たちが、日本各地・そして世界各地からも集まり、３日間にかけて市内各所を歩きます。また、このイベントでは市民の交流が活発に行われ、１年ぶりに再会を喜び合う人たち、新しく生まれる友情、親と子の語らいも生まれています。この事例からも分かるように、ウォーキングを通じて交流を深め、コミュニケーションを図っていきます。

次にウォーキングコースについて説明していきます。コースとしては、鷲別、幌別、鉱山、登別、各地区の自然をめぐるコース、アイヌを学ぶコース、知里真志保を巡るコースなどが考えられます。ほかにも登別は各地区にさまざまな美しい風景があります。例えば、鷲別地区にはキウシド湿原、鉱山地区にはグリーンタフの岩盤などがあげられます。あまり観光客に知られていない風景があり、四季折々の風景を見ることもできます。冬は雪が降るのでウォーキングは難しいと思われがちですが、カルルス地区のオロフレではこの写真のように雪道を歩くことができます。同じ場所に行っても天候や自然条件によって変わる一期一会の風景を見て歩くことで最高の思い出となるでしょう。

私たちは一例として登別地区の自然を巡るコースを考えました。潮害防備保安林、富浦の海岸線、富浦漁港、富浦の山神自然公園、春はこれに加え富浦裏通りの桜並木を巡ります。

ウォーキング後には、「デイキャンプ」を行います。この「デイキャンプ」とは、その名の通り日帰りでバーベキューなどを楽しむことです。日中に行っても、登別での非日常的な体験ができるという魅力に溢れています。バーベキューを行う場所はフォレスト鉱山を利用し、みんなでメニューを考えながら買い出しをし、コテージを休憩所として利用します。

バーベキューの食材としては、地産品を使います。登別には、えび・ホタテ・イカ・登別牛、登別豚、エゾシカといった地産品があります。それらを食事に使うことで食を通して登別の良さを知ってもらうことができるでしょう。

バーベキューで交流を深めた後は、「告白タイム」を行います。成功すれば交際へと発展、後に結婚し、地元学を通して学んだ登別の良さを知った人が定住していくような流れを想定してきます。このことにより少子高齢化に歯止めがかかることにもなります。

実現性としては、予算の点を考えました。予算は、アモーレ登別政策に参加する男女から 5000 円程度の参加費を受け取ります。食費、施設利用費、移動費など踏まえてもこの 5000 円の中で十分賄える額です。

以上の政策を行うことにより未婚率の減少、少子高齢化の問題と、ほかの地域からも人が来るため地域間交流の希薄化という登別の問題点の解決が期待出来ます。登別の街をウォーキングすることが前提となっているため日本人の運動不足問題にも向き合い健康的な体をつくることも期待できます。温泉地の中だけの観光からの脱却も可能です。そのため登別市でもウォーキング観光を推し進め新たな市の発展のきっかけを作っていきます。

以上が、私たちの発表です。ご清聴ありがとうございました。

両チームとも奮闘したことと思います。たくさんの人に見られて緊張する中で、精一杯のことをやりつくしたことと思います。その場におれず残念でした。

13 時過ぎに電話を頂き、A チームの入賞を知りました。本学の入賞は大会史上初めてのことです。私も大変嬉しかったです。

２位に入賞したＡチーム

本学からの参加者

おわりに

今回のフォーラムでは、A チームが入賞を果たすという偉業を達成しましたが、それよりも、両チーム共がプレゼンの場まで到達し、最後までやり遂げることができたことが大きかったと思います。途中で辞めたくなったこともあったと思います。何故こんなことをやっているのだろうと思ったことでしょう。現地に赴き、ヒアリングでどんでん返しを食らいながらも思考を繰り返し、意見を纏めてプレゼンの場まで辿りついていったことは、一つのことをやり遂げたという充実感を得られるとともに、「どんな難しいこともやればできる」ということを改めて認識できたのではないかと思っています。

入賞するしないは審査員が決めることであり、たまたま評価されたかされなかったかだけの違いであり、その差はあってないようなものです。人が変われば評価も変わってきますので、今回の結果は絶対的なものではありません。それよりも、今回のフォーラムに自分がどのように関わっていったのかが、今後自分の財産となり、社会出て活躍していく礎になっていくのだと思います。今回のチーム作業で汗を流した人はそれなりに関連するスキルが上がったのではないかと思います。今後社会に出てさらに磨きをかけていっていただければと思います。

また、1 位になれなかった、入賞しなかった原因は何だったのかを考えていくことが、今後社会で活躍していく自分をイメージする上での思考材料になるのだとも思えます。現状に満足せず、何が足らなかったのかを常に考えていく姿勢、前回到達できなかったものを次回は乗り越えていくという姿勢が問われているのだと思えます。政策フォーラムは京田辺もありますし、来年の登別もあります。是非次回もチャレンジしてほしく思います。

参加学生の声

川副歩生君

①今回のフォーム参加は非常に楽しく、ためになるものでした。前回の京田辺とは違い、普段ゼミで共に活動するメンバーとの参加であったからです。実際に現地でのインタビューやヒアリングが、２回目ということもあり、少し慣れていたため、全体としてスムーズに進めることができたのがよかったです。発表では、前回の反省を生かして聞いている人に語りかけるようにということを意識しました。班のなかで問題などもありましたが、結果として審査委員長賞を受賞できたことがなにより形として残せる思い出になりました。

②今回のフォームから大きく学んだことは、リーダーとしての役割や団体の役割についてです。自分はリーダーという形での参加でしたが、正直、良きリーダーではなかったと思います。メンバーを楽させようと思う気持ちが強くなり、一人で突っ走ったりなどの行動が強くなってしまったからです、自分の過去の京田辺へのリベンジの気持ちが強すぎたのかもしれません。しかし、現地でのメンバーとの話し合いや、共に活動をしていくにつれて自分の行動や考えを見直すことが多くなりました。最終の夜にはリベンジではなく、今のメンバーと勝ちたいと思うようになりました。結果としての賞は、僕が求めていたリベンジではなく、メンバーみんなが求めていた賞になれたのではないかと思います。

③今回の参加で学んだ団体行動や、人を引っ張る意味で必要なコミュニケーションや考え方を普段の生活にも生かしていきたいと思います。将来、何か一つの目標を仲間などと成功させようとする際に、必ず必要になるであろうチームワークや、協調性。そのなかでも必要なリーダーシップのありかたについて大きく学ぶことができました。今回のフォームでの経験がきっとこの先の人生で必要になるであろう考え方を学ばせてくれました。

福本瑞希さん

今回のフォーラムでは「『温泉観光』から脱皮し新たな『登別観光』構想を」というテーマが設定されていました。このテーマについて 5 月から授業の空き時間などを使いチームでたくさんの話し合いを行いました。夏休みに入り、原稿を作成し始めましたが、原稿にまとめるのには相当時間もかかりました。原稿作りはパズルのピースをどう組み合わせるか、そしてロジックが大事であると感じました。原稿を完成させ現地に入りましたが、ヒアリングを行い訂正しなければいけない点もあり見直しを行いました。みんなで話し合いをしながら原稿とパワーポイントが完成したときの達成感は大学に入って初めてのことでした。大学の授業だけではこの経験はできなかったと思います。

フォーラムを通じて学んだことは 2 点あります。1 つ目は、現地に住んでいる人の声を聞く重要性を実感できたことです。インターネットなどで登別市の現状を調べ、政策を考えました。しかし、現地に行って初めて分かることもあり、インターネットで調べただけでは不十分でした。ヒアリングでは地元愛や人のあたたかみも感じることができました。地元に住んでいる人しか知らない自然の魅力もたくさんあり、現地の生の声を聞くことが重要だと実感しました。2 つ目は、自分の未熟な点、得意としている点を知れたことです。私はリーダーを担当しましたが、統率力の足りなさに気づきました。チームを引っ張っていかなければいけない立場であったにも関わらず、チームのみんなに助けてもらってばかりでした。自らが率先して発言、行動する力をつけなければいけないと感じました。得意な点としては、原稿をもとに聞き取り手が分かりやすく見やすい資料をみんなの意見を取り入れ、作成することだと気づきました。

今回私のチームは入賞することはできませんでした。本当に悔しい思いをしましたが、それよりもこの政策フォーラムをやり遂げたこと、現状から政策を考え、資料を作成しプレゼンをするという社会に出てから役立つスキルを学べたことが重要だと気づきました。今後、この経験を踏まえ、論文を書くうえでは現地に調査に行き、社会に求められるプレゼン力、伝える力を自分の力としてつけていきたいです。
様々な点でサポートをして下さった藤井先生、岩橋先生、チームの皆さんありがとうございました。

鈴木一穂君

①今回の政策フォーラムの参加にあたっては、5 月から政策提言を進めてきました。前回の第 11 回全国大学政策フォーラム in 京田辺の資料を参考に、登別市からから送られてきたテーマを読みこなし、何が求められているのかを把握し、チーム全体で政策を練っていきました。チームで役割を分担し、9 月 1 日にある発表に向けて頑張ってきました。1 日目に登別市を観光し、夜食には登別市の農産物を使った食事が出てきて美味しくいただきました。2 日目にはレンタカーを使い現地の方へのヒアリング調査。これは自分の目で現地の状況を確認できて大変参考になりました。ヒアリングで得た情報が多かった為もあり、徹夜で作業を行い最終日へと迎えました。私のチームが発表をしている時、発表者でない私は発表をしている最中手が震えていました。改めて思うと緊張よりも、「入賞したい、頑張れ」といった祈りに近かったものだったと思います。結果発表では実行委員長賞という賞をいただき、大東文化大学の参加以来の快挙を成し遂げることができました。このチームでやってやったという達成感とともに、嬉しさがこみ上げてきました。
②政策フォーラムを通して学んだことは、アクティブ・ラーニングの事前対策講座内容が大いに役立ちまちた。事前対策講座では、全国大学政策フォーラムで現地の方の取材をするため、粗相のないよう事前にヒアリングの仕方、プレゼンテーションの行い方等を学びます。これによりスムーズに現地の方とのヒアリングに成功しました。「若いのに礼儀が良い。学生なのに話し方、聞きたい内容がまとまっている」などといった好感を持っていただけました。現地の様々な方とのヒアリングを通して、その方にあった話し方や接し方を学べました。また、インターネットの情報だけでなく、現地に足を赴いての取材の大切さを身に通して感じました。
③私が参加した第 12 回全国大学政策フォーラムで学んだことを、今取り掛かっている論文の「空き家問題」の取材などに活かしていきたいと思います。また、現地に足を赴くということはこの先の人生でも大切なことと思います。今回参加した政策フォーラムで得た出来事を無駄にしないよう、より一層精進していきたい。

大川千鶴さん

今回、登別政策フォーラムに参加して様々な貴重な体験ができました。フォーラムは、たった 3 日間のという短い期間でしたがとても濃い時間であったと思います。多くのことを学び、得ることができました。

①登別フォーラムに参加した感想

今回、この政策フォーラムに出るにあたって、5 月から事前学習を行いました。登別市は行ったことのない、ましては名前も知らない市について政策を立案し、プレゼンテーションするには市について多くことを学んでいく必要がありました。チームの仲間と何回も集まって政策を考えたり、徹夜で原稿やスライドをつくったりしたのはとても大変でしたが、振り返って見ると良い思い出です。残念ながら私達のチームは賞をとることはできませんでした。しかし、フォーラムに参加しなければこのような貴重な体験をすることはできなかったでしょう。「フォーラムに参加してよかった！」このことは胸をはって言えます。また、大学から外に出て、他の大学の人と自分たちの考えた政策をプレゼンして競い合うという経験はなかなかできません。大学生のうちにこのような経験ができたことは今後の財産となると思います。

②フォーラムの参加を通じて何を学んだか、どんな成長をしたと思うか

今回のフォーラムの参加で学んだことは２つあります。

１つ目は能動的に学ぶことの大切さです。普段私たちは大学の教室に座り、ただボンヤリと授業を聞いていることが多いでしょう。このような受動的な学びをいつもしていることが多いように感じます。そのような私にとって、仲間と集まり、ディスカッションをし、時にはヒアリングをし、「何故そうなのだろう、どうしたら良くなるのだろう」という問題意識を常に持ち課題の解決に向けて自発的に勉強することができました。このような能動的な学習をしたというのは非常に良い経験となったのではないかと思います。

２つ目は政策を考えることの難しさです。今回、自分達の政策を提言するにあたり様々な人へヒアリング調査を行いました。まず、調査を行う人へ自分たちの政策の意図を説明し、理解してもらうのが大変でした。また、事前に調査して考えていた事と違い、どんでん返しをされるといったこともありました。机上の空論だけでは上手くいかない、何人もの人、団体、そして行政の利害や考え、そしてお金が複雑に絡み合い政策はできているのだと改めて知ることができました。

③学んだことを今後どう活かしていくか

私は公務員になることが目標なので、フォーラムで学んだことは大きな糧になると思います。ヒアリングによって行政目線、市民、各団体目線から１つの課題を見れたのは非常に良い経験でした。

また、能動的な学習方法は今後の大学生活、就職活動に活きていくと思うので今後も実践していきたいです。

最後にこの場を借りてお礼を申し上げたいと思います。今回のフォーラムで指導に当たってくださった藤井先生、岩橋先生本当にありがとうございました。

深谷亮太君

①登別フォーラムに参加した感想

まず、入賞できずに残念でした。事前に制作していた原稿の段階ではよくできていると思っていましたが、現地でのヒアリングを重ねるにつれ、実現性などの面で理想と現実のギャップを痛感しました。発表では劇を取り入れているチームもあり印象に残りました。普段接することのない他大学との交流の時間もあり、とても貴重な経験となりました。

②フォーラムの参加を通じて何を学んだか、どんな成長をしたと思うか

現地に行くまでは、温泉地として有名な登別がなぜ「脱温泉観光」を目指しているのか、いまいちわからない部分もあったが、街の様子を見て回ったりヒアリングを重ねていくことでインターネットで調べるだけではわからなかったことを肌で感じることができ、自分の足を使って調査することで初めて地域の実態を正確に把握することができるということを学びました。又、他チームの発表の中には自分にはなかった視点からの政策提言もあり視野を広げることに繋がったと感じています。

③学んだことを今後どう活かしていくか

これからゼミ論を書くにあたってヒアリング等が必要になってくると思うので今回の経験を活かし積極的に地域に出ていきたいと思います。

浅野華代さん

①登別フォーラムに参加した感想

今回、初めて政策フォーラムに参加して北海道や地方自治について深く学べました。普段、都市政治や自分の地元について勉強しているので全く知らない市の政策を考えることに不安はありましたが、みんなで協力

して良い政策提言を発表することができました。私たちが提言した「ペットツーリズム」は、現在ペットを飼っている世帯が多いのと、ペットを家族として考えている方が多いので、なかなか良いところに目をつけたのではないかと自負しています。両チームとも寝ずに協力し合い作業をしていたため、発表当日は最後の力を振り絞るほど全員が眠そうでした。ヒアリングした結果を真剣に話し合いパワーポイントと原稿を修正し、自信を持って提言しました。大学生になってからグループ活動をする機会がありませんでしたし、これほどまでに何かに熱中して勉強をすることがなかったのでとてもいい経験になりました。全く知らない市について勉強するというのもなかなかないので、とても有意義な 3 日間でした。

②フォーラムの参加を通じて何を学んだか、どんな成長をしたと思うか
フォーラムを通じて、⑴北海道の地域の方の繋がり⑵ゼミ仲間との交流、協調性が学べました。
⑴北海道の方々は誰もが優しく、今回政策提言をさせていただいた登別市の方はヒアリングのために勤務時間を割いて私たちの調査に協力をしていただきました。私の住む春日部市で同じようなフォーラムをしても協力していただける方は少ないと思います。しかし、ヒアリングをさせていただいた方々は嫌な顔をせず私たちに協力してくださり、政策について真剣にご指導やアドバイスをいただきました。ヒアリングをしていて登別市の方々の暖かさが感じられました。そして、実際にヒアリングすることによって調査のやり方も学べましたし経験にもなりました。
⑵ゼミ仲間とは普段から大学での交流はありますが、このフォーラムのための大学での準備やホテルで作業している中でさらに仲は深まりましたし、人数が多いので協調性や決断力が改めて身についたと思います。A チームでは京田辺参加経験のあるリーダーを中心に活動していましたが、その中でも上手くいかないことが多くほかのメンバーとのかかわり方で苦労する面がありました。一人一人の役割が明確でなかったことが多くの要因ではないかなと思います。しかし、発表日前日にチームで話し合い、その中でそれぞれ協調性や決断力が身につき団結力が深まったのではないかなと思います。

③学んだことを今後どう活かしていくか
大学生活は勿論、就職してパワーポイントや原稿を使った発表をする機会があると思うのでその時に今回の反省点を活かしていきたいです。

山口泉さん
①登別フォーラムに参加した感想
今回登別政策フォーラムに参加して、登別の新たな観光について、まず登別に行く前に「登別には何があるのか」「何が有名なのか」調べどんな観光政策にするかを事前に 5 人 1 組のグループになり決めることにしました。調べる前まで私は登別について有名な温泉地ということしか知りませんでした。調べてみると登別にはいろんな観光地や特産品があることがわかりました。私達のグループは、「ペットと一緒に登別観光」ということでペットと一緒に登別を観光し思い出が出来るよう「フォトコンテスト」を実施してみようとなりました。登別について調べていくなかで登別は景色がとてもいい写真があり、これを活かせるのではないかと思ったからです。景色に関してはどこの観光地も景色はいいですが、直接登別に行ってみて思いましたが、海側の景色も山側の景色も私の地元にはない景色が広がっていて「私は北海道に来たんだ！」と実感しました。
1 日目はバスに乗って登別のおもな場所に案内され、その夜には政策フォーラムに参加している他の大学の生徒さんたちと交流する機会がありました。その後私達が宿泊したホテルがちょうど温泉街だったのでゼミの先生とみんなで地獄谷に行きました。とても硫黄の匂いがし、2 回目の「私は北海道に来たんだ」と実感しました。2 日目は事前にアポイントを取っていた所へ行き、私達のグループはだいたいの原稿が出来ていたので「～についてこうしようと思うのですが、どう思いますか？実現出来ると思いますか？」と聞きに周りました。その合間の時間で良い景色を撮りに行ったりしました。撮った写真は PowerPoint に添付し発表の際に出したりしました。そしてその日の夜はグループごとで発表用の原稿の仕上げと PowerPoint の作成に費やしました。3 日目、政策フォーラム本番の日になり、私はスライドの操作を担当し、重要な発表者は川副君がしました。前日に発表する原稿とスライドのタイミングの練習をした甲斐があり、うまくいき私達のグループは賞を取ることが出来ました。反省としては発表の原稿を川副君がしてくれることに甘えてしまいグループのみんなで原稿について早くから話し合えばもっと良いものが出来たのではないかと思ったことです。

②フォーラムの参加を通じて何を学んだか、どんな成長をしたと思うか
実際に現地へ行き、自分の目で現地がどういう所なのかという見て現地の人の話を聞くのが 1 番その現地を知る近道なのだと学びました。

③学んだことを今後どう活かしていくか
ゼミの卒論でも今回と同じように、テーマのもとになる場所に行き、できればその場所周辺に住む人に「このことについてどう思いましたか？」と聞けたらと思います。

本田将拓君

登別フォーラムに参加したことから、政策提言という形でものの考え方をしてみて気づいたことがいくつかある。

第一に、自分達の提言する観光政策では、観光政策の中でも特定の分野に限定して調べ始めたことから、発想により様々に派生させ、多様なアプローチでものの見方をすることが重要であることに気がついた。

第二に、提案する観光政策の実現可能性の検討をしたことから、その案の実効性がどれだけあるのかを把握することで、提案する観光政策の意義を強めることができると気がついた。

第三に、政策のプレゼンテーションで、その政策の目玉はどこであるのか、また、どのようなつながりをもって説明をするのかといったことを検討したことから、他人にわかりやすく伝えることの必要性を強く感じた。

最後に、ヒアリングを行なった際、具体的に相手方の話のどこに疑問があるのかを考えたことから、相手方の話を理解するためには、自分達の提案する観光政策への理解の深度を増すことが重要であると気がついた。上記のように、自分が行なっている行動の意味について考えることが出来たことは自分にとって登別フォーラムに参加した収穫であった。

上記の気づいたことを総括してみると、多様なものの見方、実効性の把握、もののわかりやすい伝え方、調査の際の予備知識といった、どれもゼミ論執筆において重要とされる事柄であるように思える。これらの重要性を身をもって知ることが出来たことは自身の成長の糧となることだろう。また、4 年次には、ゼミ論を執筆することになるため、その際にも大いに役立つことが期待されよう。

最後に、フォーラムを経て培った政策提言の考え方が、ゼミ論執筆においての地域課題の解決に向けた考え方と重ね合わせて思考することができれば、フォーラムに参加した意義を強く感じるところである。

渡辺孝輔君

私は今回登別アクティブラーニングに参加し、様々な経験を得た。仲間とチームを組んで１つの目標を目指し何かを完成させて行くという経験は、自分の中で多くのものを成長させてくれた。はじめに一言で説明してしまうと、私はこのアクティブラーニングに参加して本当に良かったと思う。

アクティブラーニングでは登別市の新たな観光の魅力を作り出すと言う事で様々な案を模索した。より良い案を考えるために数ヶ月前から何度も班員とのミーティングを重ね様々な案を出し合った。登別市の特色や現状など、資料になりそうなものを多く集めより正確で使いやすい情報を集めることに専念した。そうすることで自分たちの行うプレゼンがより良いものになると考えたからだ。その中で一番大切だと感じたことはチームワークだった。それぞれが担当する調べ物は当然異なる。個々人が責任を持って分担された調べ物をこなす事が最善であるからだ。だが、ここで調べ物が不十分であった時班員全員に迷惑がかかってしまう。1 人のミスが全員のミスとなるのだ。この時、チームで行動する事の責任の重さを実感した。社会に出た時にまたこう言った機会が訪れるかもしれない。私はそう言った可能性を想定し、緊張感を持ってこの仕事に臨んだ。班員からも責任を受け止め、見落としなく作業が進められていることを感じ取れた。全員が同じ考えで作業を進めていたことだろう。アクティブラーニングでは、個人の責任感とチームワークが問われると実感した。

アクティブラーニングに参加したことで、私は普段の生活で得られない貴重な経験を多く積んだ。これは今後社会人として生きていくうえで欠かせない大切なものだ。アクティブラーニングのヒアリングでは、現地の方に直接話を聞くことができた。このように直接誰かから話を聞き、それを自分でまとめるという事は私生活ではなかなかないだろう。この経験は今後必ず役に立つと思った。わずか三日間という短い時間であったが、私は大きく成長できたと思う。このアクティブラーニングは自分を大きく成長させるチャンスだ。

プレゼンの結果は惜しくも入賞を逃したが、私自身は大きく成長できた。またこのような体験に参加した際には必ず立派な結果を残すと雪辱を決めた私であった。

新井康平君

①初めての政策フォーラムということで登別に行きましたが、正直、甘く見ていました。政策フォーラムに参加した先輩方や友人の話の中でヒアリングをうまくすることができなかった、徹夜で作業をしたといった体験談を聞いて準備が足りなかっただけなのでは？と思っていました。そのため、僕たちは夏休みを利用して定期的に集まり、登別フォーラム前日まで準備をしてきました。しかし、実際に現地に到着しヒアリングなどを行ってみるとこれまで僕たちが準備してきた資料と大きく異なり、内容を大幅に変更しなければならないという問題が出てしましました。その結果、作業は発表当日の朝まで続き、一睡もすることはできませんでした。作業を終えて僕は疲労感もありましたが達成感もあり最優秀賞をとれるのではないかと思っていました。緊張をしながら結果発表を聞いていましたが僕たちは最優秀賞どころか入選することもなく終わりました。あの時、僕は悔しさよりも虚無感の方が大きかったです。おそらく、班員のみんなも悔しかったと思います。しかし、僕たちはあの内容以上のものは考え付かないのではないかと思っています。あの内容で勝負して負けてしまったのならば他の発表が素晴らしい出来だったと認めるしかないと思います。このように考えなければ落ち着かないほど悔しかったのは事実です。

②今回の政策フォーラムを通して自分の甘さを再認識できました。その場では納得のいくものができたと思っていましたが冷静に見つめ直したらまだ改善するところがあったのではないか、話し合う時間が足りなかったのではないかなど、きりがないほど出てきます。準備も重要ですが時間のない中でどれだけ冷静に且つ臨機応変に対応できるかといった能力が僕には必要だとわかりました。もっと柔軟な脳にしていきたいと思います。

③政策フォーラムでは社会人として大切なことを学ばせてくれました。発表までの準備、ヒアリング、そして発表など社会に出たら実際に行うようなことばかりでした。それを今回、体験できたのは大きいと思います。社会人になったら入選できなかったあの時の気持ちは日常茶飯事なのだろうなと思います。今回の政策フォーラムで学んだ準備期間からの出来事は忘れずにいたいと思います。